

「地域活性化」は息の長い取り組みである。粟鹿地域での活動を3年間続けてきた参加者として、「活性化」に向けた活動は軌道に乗り始めていると感じる。今後は地域住民の「熱意」「やる気」はもちろんのこと、現在課題とされている「アイデア」を具体化していくことが急務である。今回は、「アイデア」のプラン化について、「コミュニティビジネス」と呼ばれる手法を紹介し、今後の粟鹿地域の未来について述べる。

今回の意見交換では、地域住民の様々な「思い」「アイデア」が豊富に存在することがわかった。しかし、「思い」「アイデア」だけで終わらせてはならないためには、プラン化が必要であることを述べた。以下、「コミュニティビジネス」を活用した「活性化」を考えていく。

「コミュニティビジネス」とは、地域資源を活かしながら地域課題の解決をビジネスの手法で取り組むことをいう。具体的には、地域の人材やノウハウ・施設・資金を活用する。この取り組みによって、地域における新たな産業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生む効果をもたらす。地域活性化に寄与するだけでなく、喜びや実感を供給することにもつながる。

「コミュニティビジネス」は、4つの手順を用いて進める。①プランのデザイン②地域資源の分析③都市生活者のニーズ④独自性・物語性の検討(長所・短所・機会・脅威の分析)である。進めるにあたっては、漠然とせずリアルに考えること、ユニークで多彩なテーマがあること、小さく手堅く実績を積み、徐々に拡大していくことである。とくに、農村部は危機意識を持って臨むことが求められる。都市と農村の交流の場合、双方の価値観・マインドに注意する。それぞれのマインドを認識し、共通目標に向かって取り組むことである。

「プラン」を推進する側(主に地域住民)は、取り組み・達成度をホームページやブログを利用して都市住民など外部に情報発信する。地域の取り組みを知った関係者や読者から共感を得るきっかけができる。あるいは、自身も参加してみたいと思う者があらわれるかもしれない。こうした関係者や読者を共感させ、参加してみたいと思わせるような情報発信が求められる。

「コミュニティビジネス」は、単なる個人の成功物語に終わらせず、地域の社会的課題を解決し、豊かで幸せな地域社会を関係者の協力で作り上げていくことである。

次回以降、学生側は意見交換で抽出された様々な「思い」「アイデア」の中から学生の視点・粟鹿地域に適した「提案」が求められる。意見交換で取り上げられた学生による「枝豆の収穫体験」を一度実施し、体験を通じた「交流」、土地利用のモデル

ケースの検討が必要である。また、他地域で実施されている収穫体験の実例を研究し、粟鹿地域におけるケースを考えていく。

最後に、2日間にわたる粟鹿地域の散策・住民の皆様方との意見交換を通じて、粟鹿地域の歴史・自然や生活ぶりを知ることができた。今回の訪問を終えて、粟鹿地域の「活性化」に向けた議論を深めることと手始めに何か1つ取り組むことの必要性を感じた。引き続き一学生という立場で活動していきたい。

粟鹿活動報告

法学部 2年

今回私は2回目の粟鹿における自治協議会との話し合いになりました。今回の協議で次の2点が今後につながる非常に良い結果となったと思います。以下の様な、私が考えていたことを自治協の皆様に伝えることができ、検討していただけたことと、現地をより詳しく見て回ることができたことです。

まず私は以下の3点の様なことを話題にすることで、これからの活動に良い影響を与えることができたと思います。まず1点目は、自治協議会の皆様に具体的なビジョンを考えていただくための提言ができた点です。私は、地域活性化というよくわからない、曖昧な言葉を利用することは問題であるという問題意識を持っていました。そのため私は、地域活性化というものは、「周辺地域住民の幸福の増進」であって、周辺住民の幸福の増進を行うための、更に具体的なビジョンを描きましょう、という提唱を行いました。その中で、様々な観光スペシャリストなどが利用する手段である「成功した暁の絵を描き、具体的な目標を持つ」といった手法などを提言させていただきました。これは次回までにぜひ行なっていただきたいことであり、非常に重要で大切なことだと考えております。次回はこの部分から協議を始めることが出来れば、ますます成功に近づくとおもいます。2点目は、以前より話を聞いており、近年有名になってきた竹田城にまつわる提言ができた点です。竹田城自体は朝来市ですが、粟鹿地区に存在するものではありません。しかし、竹田城が雲海に包まれる瞬間を撮影しようと思えば、粟鹿地区の側から撮影しなければならないという事実があり、竹田城を題材とする写真を撮りたいと考えている写真家などに対してこのような情報をアピールすることで、夜に粟鹿に宿泊する人間を増やせるのではないかと、それをインターネットなどでアピールしたり、観光マップなどに記入すると良いのではないかと提言を行いました。竹田城課が作られるなど、話題の竹田城を利用していくことは非常に大事だと思います。最後の3つ目は、人を呼ぶことにより幸福を増進するかたちと農業を推進することで幸福を増進するかたち、どちらのかたちを取り入れるのか、という活動計画全体の流れに対して、人を集めることを行なってゆきたい、という明確な目標を定めることができたことです。私はどちらもちょっとずつやる、というのではなく、どちらかに全力を尽くしたほうが良いとずっと考えていました。その中で、人を集めるということが一番念頭に置いて考える、というように参加者の方向性が一致したことは非常に大きなことであつたと考えます。

次に、今回の協議の前に非常に詳細に粟鹿地区を見て回れたことは今後非常に大きいことであると思います。粟鹿小学校施設から始まり、耕作放棄地、景観破壊につながっている真砂土の採取現場、泥鰯の養殖施設、神社仏閣など実に様々な場所を見て

回りました。これによって、今まで話しでは聞いていたような農業の跡継ぎ問題や、歴史ある仏閣、きれいな水による安全な農業、景観破壊につながる採取などの様々な問題を非常に具体的に考えることができるようになりました。例えば、耕作放棄地に関しては、景観植物を植える計画がどのように進行されるということ、実際に森がすこしずつ近づいてくるとということ、1年放棄するだけでもとに戻すのが非常に大変なことなどを、見る前よりも明らかに深く理解することが出来ました。政治学的な問題点を考える事とあわせて、神社仏閣などでは民俗学的な視点からもお話をしていただき、さらに粟鹿地区の魅力を知ることができました。

次回の協議が、10月上旬頃の大豆収穫に開催されることが決定しましたが、私は非常に良い試みであると思います。その試みの名誉ある第一の体験者として体験をさせていただけることを踏まえて次回も頑張りたいと思います。粟鹿自治協の皆様、そして今回ファシリテーターをしていただいた北山先生、本当にありがとうございました。

第7回 朝来市粟鹿地域の「活性化」を考える会 報告書

法学部 2年

今回のフィールドワークでは、粟鹿地域全体を回ることができたのが、個人的には一番の収穫だったと思われる。今までは、粟鹿の長所や問題点について、粟鹿自治会の方々から聞いたお話を受けて、地域活性化というテーマに取り組んできた。しかし、今回実際に地域内を案内していただいて現地をこの目で見ることで、放棄田が年々増加していることや、山東真砂土を得るために山が切り開かれて景観が損なわれていることなど、さまざまな問題を実感することができた。同時に、粟鹿神社や當勝神社、粟鹿山などを訪れることで、粟鹿の魅力も改めて知ることができた。

粟鹿自治会との協議では、自治会の方々の意識の変化が感じられた。以前は、各が自らの考える漠然とした地域活性化について話されていて、何か計画を実行するにしても、まずはある程度皆の考えを一致させることが必要だという印象を受けた。だが、今回の協議では、自治会の方々の意見は、「都会などの地域外の人々を呼び、粟鹿で農業体験などをしてもらい、地域活性化につなげたい」というものに傾いてきていた。また、「何か一つでも取り組みやすい対策に着手し、次につなげていきたい」という考えも自治会の方々は口にされていた。自治会の方々から、具体的で実現可能な案を前向きに考えて、皆で協力しつつ実行していこうという姿勢が伺えるのは、とても喜ばしいことだと思われる。

一先ず、我々は、この秋の収穫期に、一度実際に粟鹿で農作物の収穫に立ち会ってみるべきだろう。その際、どのような作物がどの程度とれるのか、収穫にどれくらいの労力を要するのか、といったことを自分の身で経験し、農業体験を計画した場合に生じてくるだろう課題を洗い出していきたい。その上で、計画の内容をもう少し具体的に詰めていくべきだと考えられる。

また、他に、自治会の方々から、ドジョウを養殖し、それを調理・加工して売り出すという計画が出された。ドジョウについては現在すでに養殖中ということなので、どのように調理・加工するか、また、業者にどの程度業務を委託するのか、といったことについて今後研修と検討を重ねていくことになるだろう。我々も、他の事例を研究するなどし、可能な限りしていきたいと思う。

手入れが比較的楽な花や果実を植え、集客に役立つという案もあったが、これについては、粟鹿の土や気候に合い、手入れも比較的楽なものを調べることに以上、粟鹿の人々が自分の地域にどのような花や果実を植えたいと考えるか、ということが重要なのではないかと思われる。それは、粟鹿の人々がどのような地域にしたいと考えるか、ということにも関連すると考えられるからだ。

何を実行するにしても、試行錯誤するという意味で、最初は失敗することも多いだ

ろう。そこですぐに計画を諦めてしまうのか続行するのかは自治会の方々の判断によるが、いずれにせよ、以前行ったことの良かった点や失敗・問題点を確認し、その要因を逐一考えながら、次につなげていく必要がある。その段階で、我々学生は、他の事例を参照しながら、考察していくべきだろうと考えられる。今回のフィールドワークについては、オオムラサキの生育が失敗したとわかったが、この計画を自治会の方々は今後どうしていく考えなのか、気になっている。

このように、さしあたって学生側は、地域の現状や問題点を把握しつつ、事例研究に努めた上で、地域の方々が自ら進んで地域活性化について考えて実行していくのを微力ながら手助けしていくべきではないだろうかと考えられる。

簡単ではありますが、以上で私の報告とさせていただきます。

●活動の様子

行き乗車した「全但バス」



「道の駅但馬まほろば」

フィールドワーク「古代あさご館」



国蝶「オオムラサキの一生」



粟鹿地域自治協議会事務局



粟鹿神社(鳥居)



山東町粟鹿西谷地区の「耕作放棄地」



粟鹿川の源流「雄滝」「雌滝」



粟鹿地域全景②



當勝神社



粟鹿地域全景①



竹田城址



山東自然の家玄関

